

高松市と塩江町、香川町、国分寺町、香南町、庵治町の
合併によるまちづくりプラン（建設計画）集成版

目 次

はじめに	1
第 1 章 高松市と合併関係 5 町の概況	3
第 2 章 まちづくりの基本方針	1 3
第 3 章 施策・事業	2 2
第 4 章 公共的施設の統合整備	4 8
第 5 章 財政計画	4 8

平成 1 7 年 6 月

高 松 市

この集成版は、平成１７年３月末までに県知事へ合併を申請し、高松市と近隣５町（塩江町、香川町、国分寺町、香南町、庵治町）との合併の枠組みが決定したことから、これまで高松市と各町との間で設置している合併協議会において個別に作成した『合併によるまちづくりプラン（建設計画）』について、共通部分の集約整理を行うとともに、合併後の各地域のまちづくり施策について、比較し一覧できるよう、取りまとめたものです。

※合併の期日 平成１７年９月２６日：塩江町
 平成１８年１月１０日：香川町、国分寺町、香南町、庵治町

はじめに

1 合併の考え方

	塩 江 町	香 川 町	国 分 寺 町	香 南 町	庵 治 町
	今日、住民に最も身近な行政サービスの提供主体である基礎自治体（市町村）を取り巻く行財政環境は、財政面、行政運営面を問わず、ますます厳しさの度を増しており、これに的確かつ効果的に対応するための手法として、「市町村合併」が大きな政策テーマとして取り上げられています。 高松市と塩江町、香川町、国分寺町、香南町、庵治町の5町（以下「合併関係5町」という。）においても、ほぼ同様の状況にあり、時機を失することのないよう、次のような視点に立って、合併を進めることとしました。				
（１）生活圏の広域化への対応	今日の社会経済活動の進展、特に、交通網や情報通信技術の発達などにより、通勤・通学をはじめ、医療、買物など、住民の生活圏は、市町の区域を越えて拡大しています。 高松市と合併関係5町を含む圏域においても、住民の生活圏の広域化に伴い、交通体系の整備をはじめ、都市計画や土地利用、公共施設の一体的な整備、環境問題への対応など、広域的なまちづくり施策に対するニーズは、ますます増大するとともに、公共サービスの提供と受益・負担の関係において、不均衡が生じています。 このようなことから、住民の生活実態が一つの圏域として成り立っている地域では、圏域全体としての行政投資の有効化、生活圏における行政サービスの均一性、同質性の確保を図る観点から、拡大する生活圏に即した一体的で総合的な施策の展開が求められており、それを実現するためには、合併によって一つの自治体となることが究極の有効な手段と考えられます。				
（２）少子・高齢社会への対応	本格的な少子・高齢社会を迎え、生産年齢人口の減少や老年人口の増加は、経済活力の低下に伴う税収の減少、保健・医療・福祉等の社会保障関係の経費の増大など、自治体の財政に多大な影響を与えることが考えられます。 このため、自治体においては、限られた財源の中で、一定水準の行政サービスを維持・確保することが課題となっています。 このようなことから、合併により、財源やマンパワーの確保をはじめ、行政資源の再配分と効率的運用を図るなど、行政コストの縮減と住民ニーズに的確に応えられる合理的な行政組織の再構築を進めていくことが求められています。				

2 計画作成の方針

	塩 江 町	香 川 町	国 分 寺 町	香 南 町	庵 治 町
(1) 計画作成の趣旨	高松市と合併関係 5 町の合併に伴う新しいまちづくりのための基本方針を定めるとともに、この基本方針に基づく建設計画を作成し、その実現を図ることにより、高松市と合併関係 5 町の速やかな一体化の促進と新たなまちづくりを進め、もって地域住民の福祉の向上と地域の均衡ある発展を図ります。				
(2) 計画の構成	この計画は、合併による新しいまちづくりのための基本方針、基本方針を実現するための施策・事業、公共的施設の統合整備および財政計画を中心として構成します。 ①高松市と合併関係 5 町の概況 ②まちづくりの基本方針 ③施策・事業 ④公共的施設の統合整備 ⑤財政計画				
(3) 計画の期間	まちづくりの基本方針は、将来の都市づくりの方向性を展望した長期的視野に立つものとし、施策・事業、公共的施設の統合整備および財政計画は、平成 1 7 年度（合併の日）から平成 2 7 年度までとします。				
(4) 計画の区域	原則として合併関係 5 町の地域を対象としますが、高松市と合併関係 5 町の速やかな一体化を促進し、住民福祉の向上と地域の均衡ある発展に資すると認められる場合は、高松市地域についても対象としています。				

第1章 高松市と合併関係5町の概況

1-1 位置と地勢

高松市、塩江町、香川町、国分寺町、香南町、庵治町（以下「1市5町」という。）は、四国の東北部、香川県のほぼ中央に位置しています。北は瀬戸内海に面し、女木島、男木島、大島などの島々が散在し、南の徳島県境には東西に走る讃岐山脈が連なり、北に向かってゆるやかに傾斜し、香東川、本津川などの水系を中心に形成された讃岐平野に市街地や田園が広がり、国道11号、32号、193号やJR、琴電など主要な交通ネットワークで結ばれています。（図表1-1-2）

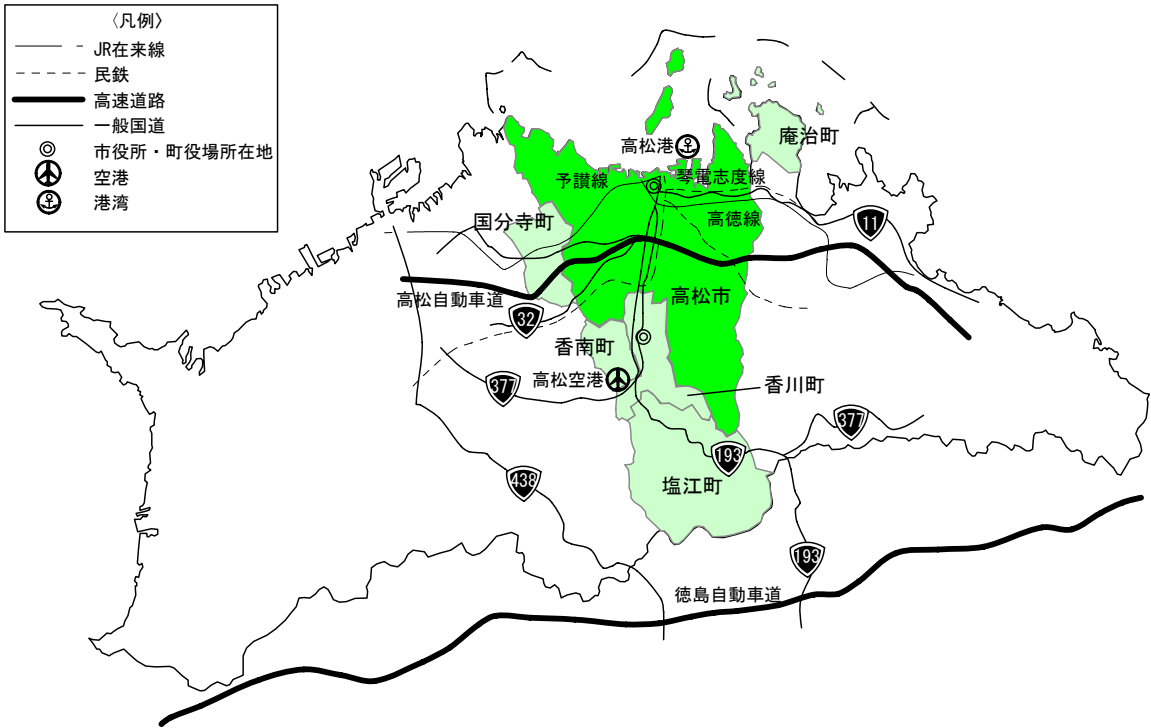
1市5町の総面積は358.57k㎡で、香川県の総面積(1,875.98k㎡)の19.1%を占め、可住地面積比率は61.9%となっています。なお、高松市は194.34k㎡と1市5町の総面積の54.2%を占めています。（図表1-1-1）

図表1-1-1 面積、可住地面積と比率等

	面積(k㎡)	可住地面積(k㎡)	可住地面積比率(%)	県全体に占める面積比率(%)
高松市	194.34	153.79	79.1	10.4
塩江町	80.10	12.67	15.8	4.3
香川町	27.33	18.03	66.0	1.5
国分寺町	26.25	15.90	60.6	1.4
香南町	14.72	13.50	91.7	0.8
庵治町	15.83	8.14	51.4	0.8
1市5町合計	358.57	222.03	61.9	19.1
香川県	1,875.98	991.35	52.8	100.0

(注)面積は平成14年、可住地面積は平成12年のデータ

図表1-1-2 1市5町の位置



1-2 人口と世帯数

1-2-1 総人口

平成12年の国勢調査による1市5町の総人口は398,479人で、香川県の総人口（1,022,890人）の39.0%を占めています。なお、高松市の人口（332,865人）は、1市5町の総人口の83.5%を占めています。

20年前の昭和55年と比較すると、1市5町の総人口は7.5%増加しており、特に、国分寺町（48.3%増）、香川町（24.7%増）、香南町（20.4%増）の3町は大幅に増加していますが、最近の増加率は、低くなる傾向にあります。また、高松市（5.1%増）では微増、塩江町（20.8%減）と庵治町（15.8%減）では減少しています。

（図表1-2-1）

図表1-2-1 人口の推移（昭和55年～平成12年）

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
高松市	316,661	326,999	329,684	331,004	332,865
昭和55年を100とした指数	100.0	103.3	104.1	104.5	105.1
5年前との増減率	5.9	3.3	0.8	0.4	0.6
塩江町	4,598	4,240	3,980	3,727	3,640
昭和55年を100とした指数	100.0	92.2	86.6	81.1	79.2
5年前との増減率	△5.0	△7.8	△6.1	△6.4	△2.3
香川町	19,360	20,964	22,649	23,324	24,136
昭和55年を100とした指数	100.0	108.3	117.0	120.5	124.7
5年前との増減率	27.2	8.3	8.0		

1-2-2 年齢階層別人口

平成12年の1市5町の年齢階層別人口構成比は、年少人口が15.1%、生産年齢人口が67.0%、老年人口が17.8%となっています。

平成2年から平成12年の間の1市5町の年齢階層別人口構成比をみると、10年間で、年少人口（15歳未満）は3.7ポイント、生産年齢人口（15～64歳）は1.4ポイント低下し、老年人口（65歳以上）は5.1ポイント増加しており、少子・高齢化が進行しています。

この傾向は、総人口が減少している塩江町と庵治町で、特に顕著となっています。（図表1-2-3）

図表1-2-2 年齢階層別人口の推移（平成2年～12年）

(単位:人)

県市町	年	年少人口 (15歳未満)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	年齢不詳	総数
高松市	平成2年	61,523	226,608	40,886	667	329,684
	平成7年	53,877	227,303	49,780	44	331,004
	平成12年	50,107	223,684	58,609	465	332,865
塩江町	平成2年	535	2,508	937	0	3,980
	平成7年	438	2,128	1,161	0	3,727
	平成12年	384	1,901	1,355	0	3,640
香川町	平成2年	4,648	15,238	2,745	18	22,649
	平成7年	4,004	16,019			

1－2－3 一般世帯数

平成12年の1市5町の一般世帯^{※1}数は、151,825世帯で、10年前の平成2年と比較して16.0%増加しています。一方、平成12年の世帯人員は391,127人と平成2年に比べて2.2%の増加と、一般世帯数に比べて伸び率が低く、この結果、1世帯当たりの人員は、平成2年の2.92人から平成12年には2.58人に減少し、核家族化が進行していることがうかがえます。(図表1－2－6)

図表1－2－6 一般世帯数、世帯人員、1世帯当たり人員の推移（平成2年～12年）

(単位:世帯、人)				
県市町	年	一般世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員
高松市	平成2年	114,067	323,508	2.84
	平成7年	123,252	325,410	2.64
	平成12年	130,843	326,583	2.50
塩江町	平成2年	1,253	3,934	3.14
	平成7年	1,207	3,627	3.00
	平成12年	1,245	3,469	2.79
香川町	平成2年	6,421	22,432	3.49
	平成7年	7,054	23,126	3.28
	平成12年	7,809	23,851	3.05
国分寺町	平成2年	5,262	18,269	3.47
	平成7年	6,688	21,362	3.19
	平成12年	7,585	22,973	3.03
香南町	平成2年	1,845	6,992	3.79

1－2－4 産業別就業人口

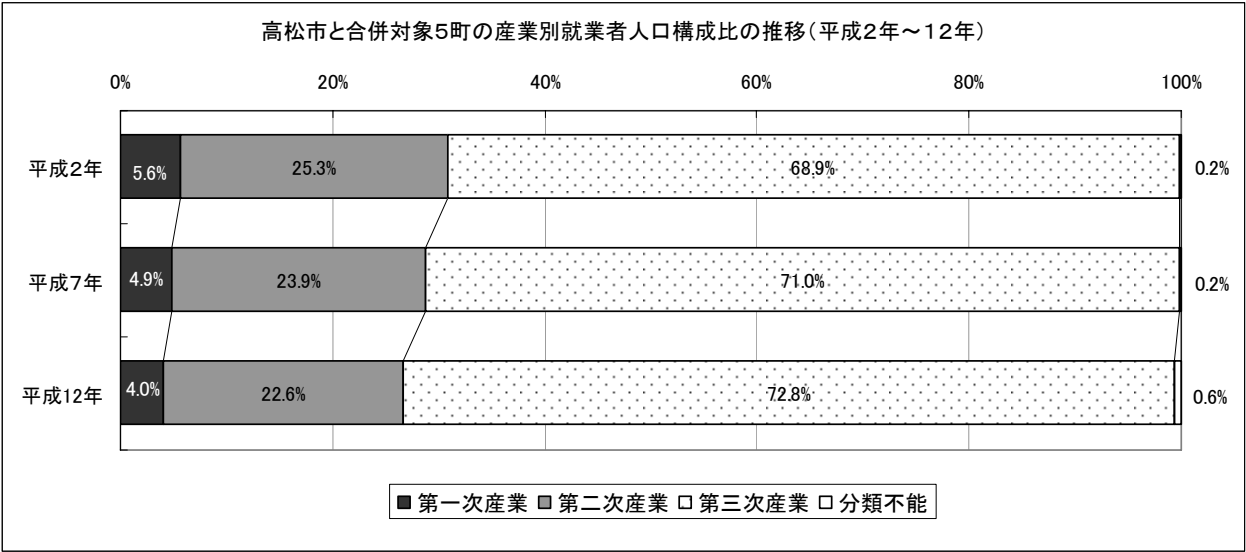
平成12年の1市5町の総就業者数は197,954人で、平成2年と比較すると増加していますが、5年前の平成7年の200,714人に比べ1.4%減少しています。各市町の総就業者数を5年前と比較すると、香川町と国分寺町では増加していますが、他の1市3町では減少しており、特に塩江町と庵治町で減少率が高くなっています。

(図表1－2－10)

また、平成12年の1市5町の産業別就業人口の構成比は、第一次産業が4.0%、第二次産業が22.6%、第三次産業が72.8%となっています。これを10年前の平成2年と比較すると、第一次、第二次産業就業者数が減少し、第三次産業就業者数が増加しています。(図表1－2－9)

各市町の産業別就業人口の構成比をみると、高松市に比べ各町とも第一次産業、第二次産業のウエイトが相対的に高くなっていますが、10年前と比較すると構成比が低下しています。特に、構成比が3.0ポイント以上低下しているのは、第一次産業では、塩江町、香川町、香南町、第二次産業では、庵治町となっています。(図表1－2－10)

図表1－2－9 1市5町の産業別就業人口構成比の推移(平成2年～12年)



図表1－2－10 産業別就業人口の推移(平成2年～12年)

県市町	年	(単位:人、%)
-----	---	----------

1－2－5 将来人口推計

(財) 日本統計協会の推計によると、1市5町の総人口は、平成17年の399,580人をピークに減少し、平成32年は383,209人と、ピーク時の平成17年に比べ約1万6千人、平成12年に比べ約1万5千人減少すると推計されています。これを市町別にみると、香川町、国分寺町、香南町の3町では増加しますが、残る1市2町では減少すると推計されています。(図表1－2－11)

また、1市5町の年齢階層別人口構成比の推計では、平成27年以降は老年人口比率が25%を超え、4人に1人が65歳以上の高齢者になり、さらに、平成32年の老年人口比率は26.7%となり、生産年齢人口(59.6%)の半数近くになると推計されています。(図表1－2－13)

図表1－2－11 将来推計人口の推移（平成12年～32年）

(単位: 人、%)

市 町	年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
高松市	人口	332,865	332,032	328,326	321,743	312,564
	指数	100.0	99.7	98.6	96.7	93.9
塩江町	人口	3,640	3,545	3,428	3,287	3,129
	指数	100.0	97.4	94.2	90.3	86.0
香川町	人口	24,136	24,921	25,574	25,953	26,042
	指数	100.0	103.3	106.0	107.5	107.9
国分寺町	人口	23,158	24,690	26,103	27,333	28,301

1-3 交流人口

1-3-1 通勤・通学

平成12年の国勢調査における従業地・通学地集計（15歳以上を対象）をみると、高松市と合併関係5町は、通勤・通学により、ひとつの都市圏を形成していることがうかがえます。

各町を常住地とする従業者・通学者のうち、高松市への通勤・通学者の占める比率は、香川町の49.3%を筆頭に、国分寺町で44.7%となっており、最も低い塩江町でも24.5%を占めています。また、各町から高松市への通勤・通学者数では、香川町の6,852人を筆頭に、国分寺町の5,733人など、合計16,066人にのぼり、これは5町を常住地とする通勤・通学者総数（36,862人）の43.6%を占めています。

一方、高松市から5町への通勤・通学者は、香川町への1,871人を筆頭に、国分寺町、香南町でも1千人を超え、合計4,762人に達し、高松市を常住地とする通勤・通学者数の2.6%を占めています。（図表1-3-1）

図表1-3-1 通勤・通学流入出人口（平成12年）

(単位:人、%)

項目 常住地 従業地・通学地	高松市		塩江町		香川町		国分寺町		香南町		庵治町	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高松市	163,486	89.1	474	24.5	6,852	49.3	5,733	44.7	1,822	39.9	1,185	32.6
塩江町	14											

1-3-2 通院・入院

通勤・通学と同様に、通院・入院においても、高松市と合併関係5町の結びつきが強いことがうかがえます。

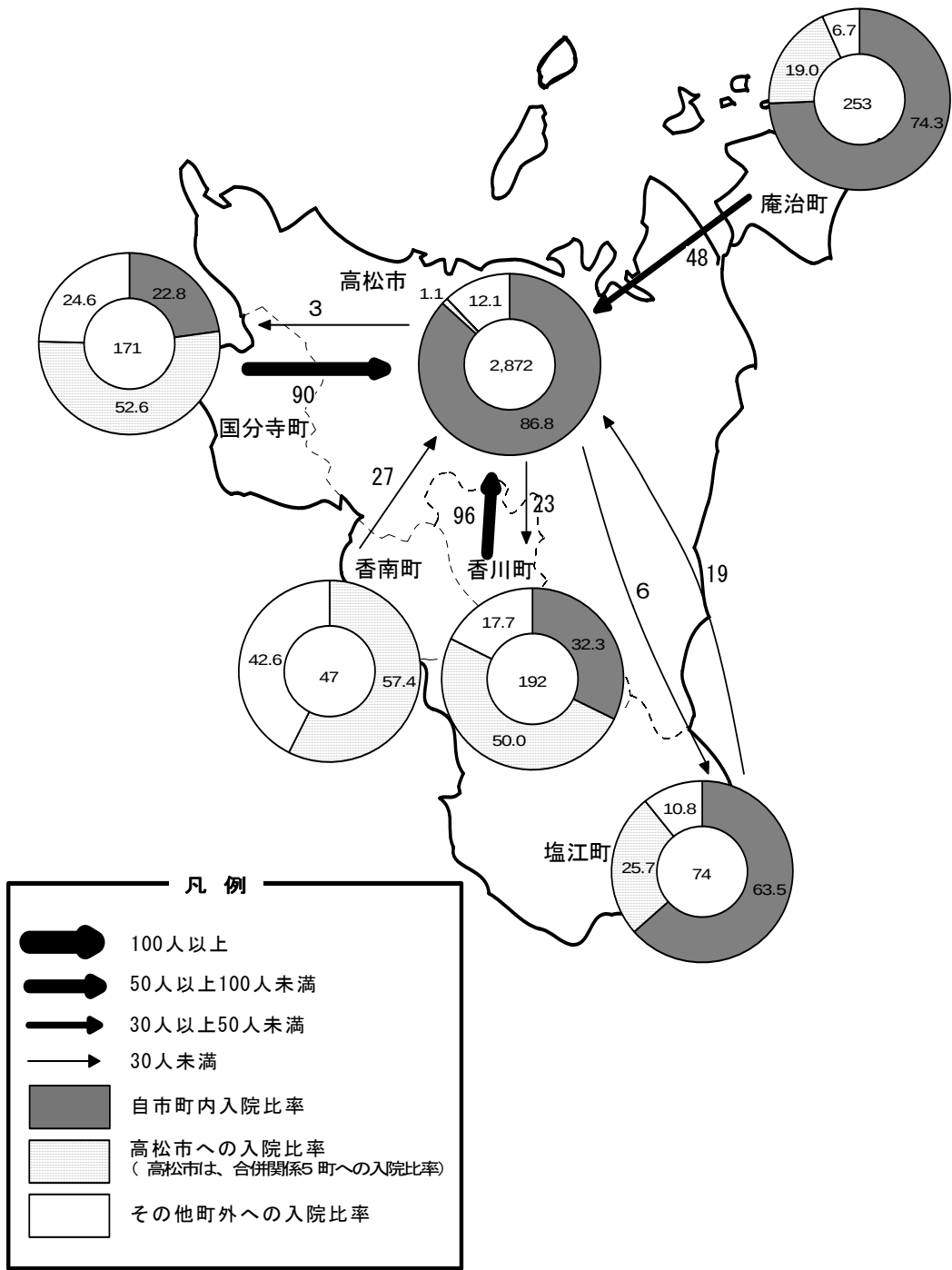
平成15年の『香川県患者調査』をみると、各町の通院患者のうち、通院先が高松市である患者の割合は、庵治町の86.4%を筆頭に、国分寺町(49.5%)、香南町(40.0%)の3町で40%以上となっており、自町内への通院を大きく上回っています。また、5町全体でみても、通院患者(1,525人)の41.9%に当たる639人が高松市へ通院しています。(図表1-3-2)

一方、各町の入院患者のうち、入院先が高松市である患者の割合は、香南町の57.4%を筆頭に、国分寺町(52.6%)、香川町(50.0%)の3町で50%以上となっており、自市町内での入院を大きく上回っています。また、5町全体でみても、入院患者(737人)の38.0%に当たる280人が高松市で入院しています。(図表1-3-3)

図表1-3-2 通院患者の受療地域

通院患者の受療地域（平成15年） （単位：人、％）												
住所 項目 受療地域	高松市		塩江町		香川町		国分寺町		香南町		庵治町	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高松市	6,832	90.1	26	24.1	208	32.2	256	49.5	60	40.0	89	

入院患者の受療地域（平成15年）



(注) 円グラフは自市町内及び高松市、その他町外での入院者比率(単位:%)。
円グラフ中央の数値は当該市町に常住する入院者数。
入院患者は一般病床のみで平成15年6月1日現在。
(資料)『香川県患者調査』(香川県)

1－4 広域連携

1－4－1 広域行政

高松市と合併関係5町をはじめ、1市10町で構成する「高松地区広域市町村圏振興事務組合」では、老人ホームやし尿処理施設の設置・管理運営など10の事務についての共同処理を実施し、広域的な行政ニーズに対応しており、高松市は10事務のすべて、合併関係5町は図表1－4－3に掲げる事務処理に参画しています。（図表1－4－1、図表1－4－3）

このほか、合併関係5町では、図表1－4－2に掲げる一部事務組合に参画しています。（図表1－4－2）

図表 1－4－1 高松地区広域市町村圏振興事務組合での共同事務処理事務数

市町名	共同事務処理事務数
高松市	10
塩江町	8
香川町	8
国分寺町	7
香南町	9
庵治町	6

（資料）『高松地区広域市町村圏振興事務組合規約』

図表 1－4－2 合併関係5町が参画する一部事務組合

一部事務組合名	塩江町	香川町	国分寺町	香南町	庵治町
綾南環境衛生組合			○		
木田香川地区町村税滞納整理組合	○	○		○	○
坂出綾歌地区市町村税滞納整理組合			○		
讃岐地区広域消防組合	○	○		○	○
香川南部葬斎場組合	○	○		○	
香川県東部清掃施設組合		○			○
香川県市町総合事務組合（※注）	○	○	○	○	○

第2章 まちづくりの基本方針

2-1 新しいまちづくりの理念

塩江町	香川町	国分寺町	香南町	庵治町
高松市と塩江町の合併による新しい都市地域は、香川県の中央部に位置し、瀬戸内海から讃岐山脈までの広範な地域を包含し、南北に流れる香東川の流域を一体的に形成しており、県面積の約15%を占め、県人口の約33%が居住しています。	高松市と香川町の合併による新しい都市地域は、香川県の中央部に位置し、南北に流れる香東川の流域を一体的に形成しており、県面積の約12%を占め、県人口の約35%が居住しています。	高松市と国分寺町の合併による新しい都市地域は、香川県の中央部に位置し、国分寺町と高松市西部を南北に流れる本津川流域を一体的に形成しており、県面積の約12%を占め、県人口の約35%が居住しています。	高松市と香南町の合併による新しい都市地域は、香川県の中央部に位置し、南北に流れる香東川の流域を一体的に形成しており、県面積の約11%を占め、県人口の約33%が居住しています。	高松市と庵治町の合併による新しい都市地域は、香川県の中央部に位置し、瀬戸内海に浮かぶ、大島、女木島、男木島などの島々を有し、県面積の約11%を占め、県人口の約33%が居住しています。
また、この都市地域は、行政、経済などの中枢管理機能が集積するとともに、香川県内の東西軸、南北軸となる高速道路や国道をはじめ、高松空港、高松港など、総合的な交通ネットワークが整備され、商工業、農林水産業などの多彩な産業が発達する一方で、海から山までの豊かで変化に富んだ自然、特有の歴史、香り高い地域文化、多彩な観光資源などを有しています。	また、この都市地域は、行政、経済などの中枢管理機能が集積するとともに、香川県内の東西軸、南北軸となる高速道路や国道をはじめ、高松空港、高松港など、総合的な交通ネットワークが整備され、商工業、農林水産業などの多彩な産業が発達する一方で、海から山までの豊かで変化に富んだ自然、特有の歴史、香り高い地域文化、多彩な観光資源などを有しています。	また、この都市地域は、行政、経済などの中枢管理機能が集積するとともに、香川県内の東西軸となる高速道路や国道をはじめ、瀬戸大橋に接続するJR、高松空港、高松港など、総合的な交通ネットワークが整備され、商工業、農林水産業などの多彩な産業が発達する一方で、海から山までの豊かで変化に富んだ自然、特有の歴史、香り高い地域文化、多彩な観光資源などを有しています。	また、この都市地域は、行政、経済などの中枢管理機能が集積するとともに、高松空港をはじめ、香川県内の東西軸、南北軸となる高速道路や国道、高松港など、総合的な交通ネットワークが整備され、商工業、農林水産業などの多彩な産業が発達する一方で、海から丘陵までの豊かで変化に富んだ自然、特有の歴史、香り高い地域文化、多彩な観光資源などを有しています。	また、この都市地域は、行政、経済などの中枢管理機能が集積するとともに、香川県内の東西軸、南北軸となる高速道路や

	塩 江 町	香 川 町	国 分 寺 町	香 南 町	庵 治 町
地域の役割 と機能		このような質の高い生活文化を一層発展させ、地域住民はもとより、近隣地域の人々の広範な学習・交流意欲に応えられる「質の高い生活文化の創造と身近な学習・交流機能」は、うるおいのある田園都市型の生活を実現していく上で、香川町地域の潜在力を生かした役割として期待されています。			
	暮らしの支援機能	暮らしの支援機能	西の玄関機能	暮らしの支援、交流機能	自然と共生するやすらぎ機能
	塩江町は、内場ダムおよび建設中の梶川ダムに代表される水源地域であり、水源かん養地域でもあります。また、生鮮食料品や高付加価値化された農林水産物の供給地域でもあり、さらには、広域組合によるごみ処理施設が整備されるなど、高松市や周辺地域の住民生活にとって重要な役割を担っています。 また、豊かな自然環境と暮らしやすさを組み合わせた、田園都市型のライフスタイルの提供が可能な地域としても期待されるなど、暮らしの支援機能を引き続き担っていくことが要請されています。	豊かな農地が広がる田園地帯を有する香川町地域は、住民生活に欠くことのできない米、野菜、果樹などの生産供給機能や自然環境の保全機能を担ってきました。 今後は、安全で良質な食糧の安定供給と農業の持つ多面的な機能を発揮させつつ、高松空港や高松自動車道などへのアクセスの利便性を活用し、花き、果樹生産など農業の高付加価値化への挑戦を一層促進するとともに、消費者との結びつきを深め、ブランド力を高めながら、食料供給を軸とした暮らしの支援機能を担っていくことが求められています。	国分寺町地域は、瀬戸大橋を経て本州に至るＪＲ、国道を擁し、高松空港にも近いなど、高松都市圏の西の玄関として、発展する可能性を有しています。 こうした国分寺町地域の地理的優位性を活用していくためには、地域の特性を生かした都市の核の育成とネットワークづくりを進めるとともに、住民に身近なコミュニティ文化、生活文化および交流の創造と発信を担う機能を育てていくことが望まれています。	丘陵地や田園に広がる農地を有する香南町地域は、米作を基幹として、野菜・果樹・畜産などの生産供給機能や自然環境の保全機能を担ってきました。今後は、高松空港への利便性を活用し、花き、果樹生産など農業の高付加価値化への挑戦を促進するとともに、安全で良質な食料の安定供給と農業の持つ多面的な機能を発揮させつつ、暮らしの支援機能を担っていくことが求められています。 同時に、香南町地域の田園環境のもつ広域的な役割に着目し、これを生か	

また、香川インテリジェントパークを核とした新しい時代を拓く都市型産業や、特色ある文化の創造に向けた、技術・情報・文化の複合拠点の形成を図ります。

③都市近郊エリア（田園型産業・生活創造エリア）

都市近郊の特性を生かし、豊かな田園環境と調和した快適な居住環境や文化交流機能を軸とした、生活文化交流ゾーンの形成を図ります。

また、都市拠点地域と連携した商業・サービス機能の活性化を図るとともに、高松空港を活用した高付加価値型農業などの産業の振興を図ります。

さらに、都市中心エリアなどとのネットワークに支えられた、文化・スポーツなど、多様な生涯学習の場として、市民の憩いとうるおい空間の充実を図ります。

④丘陵・林間エリア（親林・親水型保養・交流創造エリア）

温泉を核に、森林、清流などの水と緑の自然環境を生かした観光・レクリエーション機能の集積を進め、親林・親水型保養・交流環境づくりを進める中で、圏域内外から広域的に誘客できる質の高い広域保養交流ゾーンの形成を図ります。

また、都市中心エリアなどとのネットワークに支えられた、文化・スポーツなど、多様な生涯学習の場として、市民の憩いとうるおい空間の充実を図ります。

〈エリア別の機能整備（まちづくり）のイメージ図〉

